

ソーラー架台基礎

e-pile・sp

イーパイル エスピー

大臣認定鋼管杭基礎メーカー 株式会社 東 部

架台基礎も、人に地球にやさしい「イーパイル・エスピー工法」

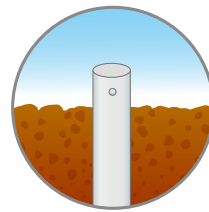
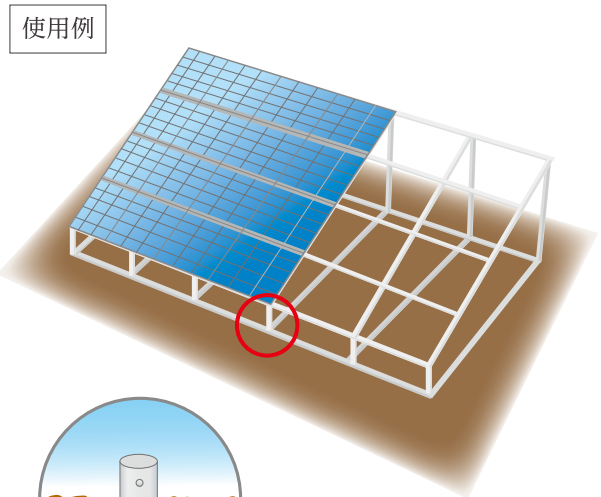
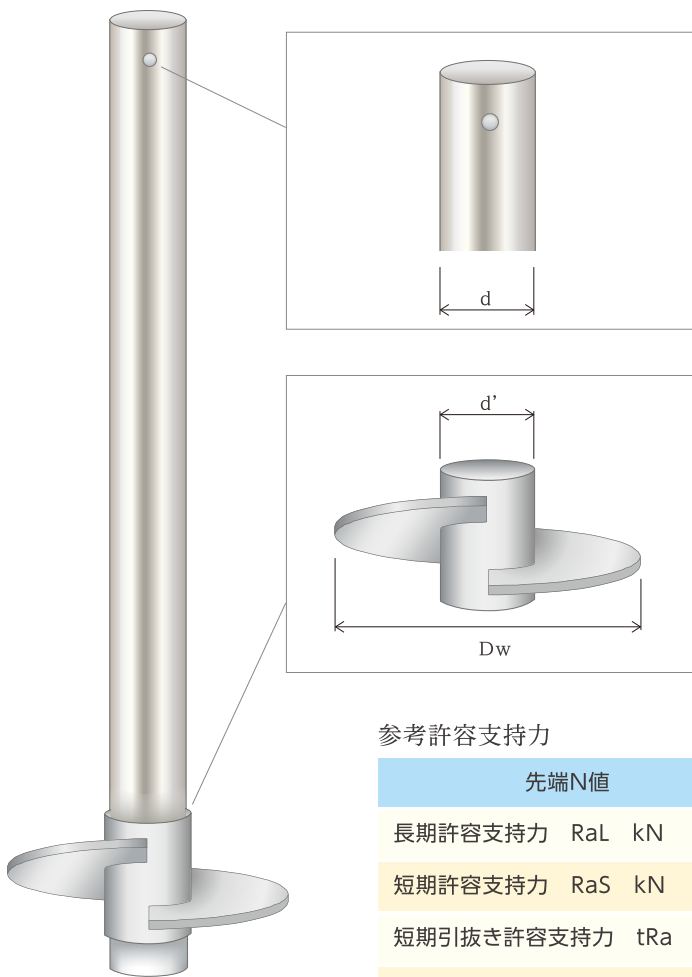
- 短工期・ハイスピード施工による「ローコスト」
- 無廃土・セメント不要による「環境配慮」
- 高性能・高品質による「長寿命」



e-pile・sp



Tobu,



地中にe-spを回転圧入します。

参考許容支持力

	先端N値	3	4	5
長期許容支持力 RaL kN		6.3	8.4	10.5
短期許容支持力 RaS kN		12.6	16.8	21.0
短期引抜き許容支持力 tRa kN		2.7	3.7	4.6
極限引抜き許容支持力 tRu kN		4.05	5.55	6.8

※N値算出は、スウェーデン式サウンディング試験
 ※Dw200mm、杭長は2mとしています。
 ※上記数値は、杭長により変わります。
 ※上記引抜き力は、実施値であり、引抜き強度を保証するものではありません。

特徴

- 地中に杭を直接回転圧入をするだけで、コンクリート基礎工事の手間とコストが大幅に軽減されます。
- 先端部は拡底型となっているため、大きな支持力、引抜き力が期待出来ます。
- 軸パイプと先端部はボルト4本で取り付けるため、スピードが早く、天候に左右されない安定した品質が確保されます。
- コンクリート基礎に比べ、土地の復帰が容易です。

材質

パイプ : 一般構造用炭素鋼管 (STK500) d: ϕ 48.6mm t=2.4mm
 先端部 : パイプ 一般構造用炭素鋼管 (STK400) d': ϕ 60.5mm t=3.8mm L=100mm
 羽根部 : 一般構造用圧延鋼材 (SS400) Dw: 150mm t=4.5mm・200mm t=6.0mm

表面仕上

パイプ : 溶融亜鉛鍍金 JIS H8641-HDZ40

用途

太陽光パイプ架台用杭

納期

標準品 お問い合わせ下さい。

備考

本製品は、合計金額に関わらず運搬費、施工費が発生致します。

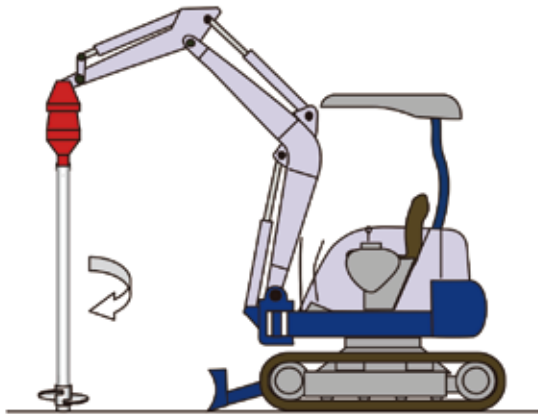


ご利用頂く前に引抜き強度試験が保たれている事をご確認下さい。
 現地地質により、引抜き強度が確保できない場合は、コンクリート基礎工法等をご検討下さい。
 杭打設後、表面処理が剥離した部分にはローバルR等の補修剤を塗布して下さい。

e-pile・sp 引抜き強度試験例

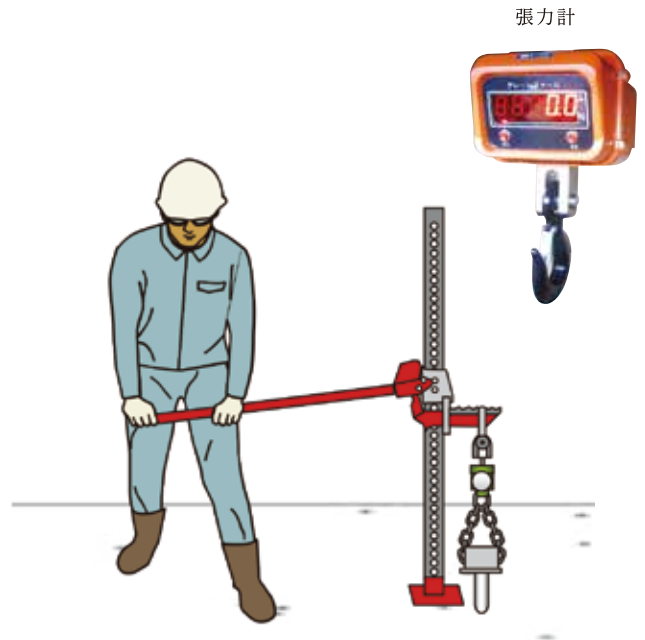
1.

頭部から300mmの位置に打込みの目印をつけます。
小型杭打ち機を使用して、杭が鉛直になるよう確認しながら回転圧入をします。



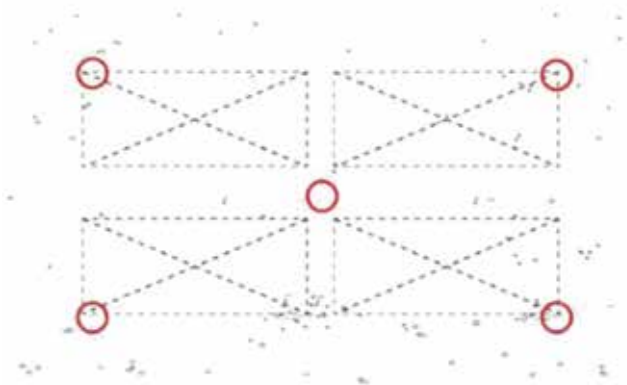
2.

杭が地面から300mmの高さになるまで打込み、引抜きキットを図のようにセットし、杭を鉛直方向に引抜き、最大値を確認します。



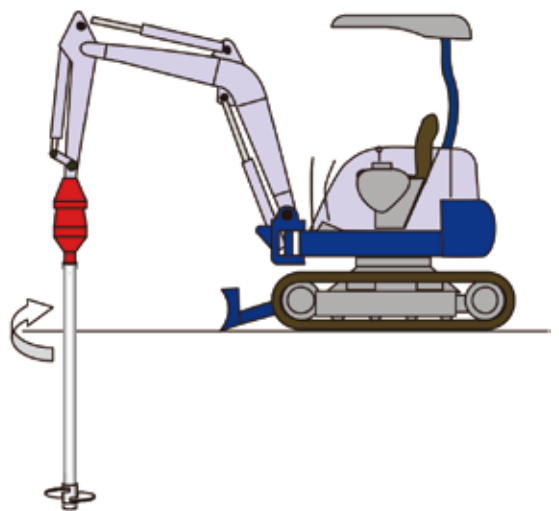
3.

引抜き強度の確認は、図の様に敷地内複数箇所で実施される事をおすすめします。



4.

引抜き力(最大値)を確認した後、張力計等はずし、杭打ち機により逆回転引抜きを行います。

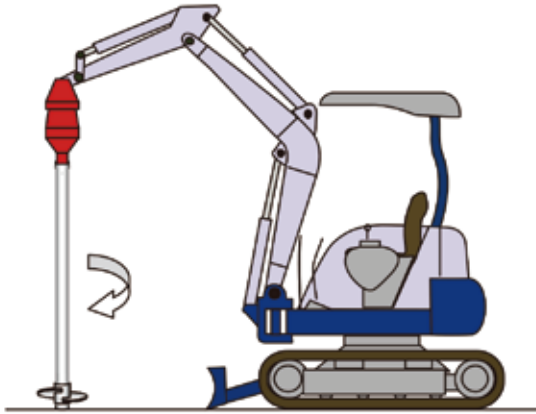


1. 同じ杭を流用し、何度も打ち込む、または引抜く作業を繰り返すと、杭が変形し正しい引抜き強度が計測できません。杭に変形が認められた場合には新品に交換して試験を行って下さい。
2. 引抜き強度が足りない場合、杭を打ち込んだまま数日経過すると地盤が締まり強度が上がる場合があります。また、整地を行い、ローラーをかけることによっても引抜き強度があがる事があります。

e-pile・sp 鉛直支持力試験例

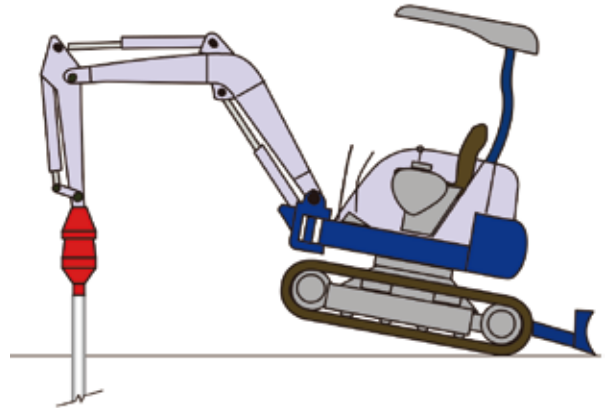
1.

頭部から300mmの位置に打込みの目印をつけます。
小型杭打ち機を使用して、杭が鉛直になるよう確認しながら回転圧入をします。



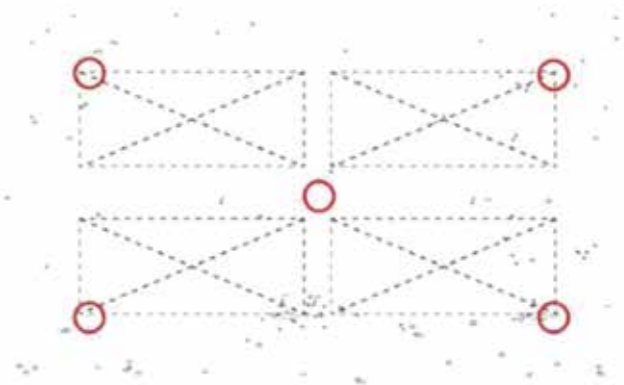
2.

杭が地面から300mmの高さになるまで打込み、図のようにセットし、杭打ち機に搭載した管理装置にて押し圧力（鉛直支持力）を確認します。



3.

鉛直支持力の確認は、図の様に敷地内複数箇所で行われる事をおすすめします。



4.

【施工管理装置】



1. 同じ杭を流用し、何度も打ち込む、または引抜く作業を繰り返すと、杭が変形し正しい引抜き強度が計測できません。杭に変形が認められた場合には新品に交換して試験を行って下さい。
2. 引抜き強度が足りない場合、杭を打ち込んだまま数日経過すると地盤が締まり強度が上がる場合があります。また、整地を行い、ローラーをかけることによっても引抜き強度があがる事があります。